

基本政策 I

人間としての在り方生き方の軸をつくる

現状と課題

・今日の子ども・若者が生きる社会は、ますます予測が困難な状況になっており、これまでも、社会環境の変化に十分対応できず、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態について、コミュニケーション能力の不足や低い自己肯定感、他者への配慮の不足といった状況が指摘されており、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力を育成する必要があります。

・21世紀の日本にふさわしい教育体制の構築に向けた内閣の私的諮問機関「教育再生実行会議」における第十次提言では、「諸外国に比べて子供たちの自己肯定感が低いままでは、『社会に開かれた教育課程』の下でこれからの時代に求められる資質・能力を十分に実現できたことにはなりません。」と述べられている一方で、全国学力・学習調査の結果を見ると、本市の子どもの自己肯定感は、小学生、中学生ともに依然として全国平均よりも低くなっています。

・本市では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促すために、すべての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き、子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系列的に育てる教育が求められています。

政策目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な取組成果

「キャリア・進路指導担当者研修会」を3回開催するとともに、直接学校を訪問して研修を行う学校等訪問研修会を32回開催し、各学校におけるキャリア在り方生き方教育の効果的な実践を支援しました。

各種研修において「かわさきパラムーブメント」について説明を行うとともに、希望者を対象とした研修「教室でできるパラムーブメント」を開催し、各学校での多様性を尊重する教育の実践を支援しました。

教育委員会広報誌「教育だよりかわさき」でキャリア在り方生き方教育の実践例を紹介して保護者への啓発を行うとともに、「教育改革推進だより」を活用して各学校における取組を周知し、教職員への啓発を行いました。

参考指標

※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的にを行います。

指標名	実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
自己肯定感	小6 (H29(2017))	79.9%	87.3%	83.1%		82.0%以上
	中3 (H29(2017))	70.4%	80.0%	75.0%		74.0%以上
「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
将来に関する意識	小6 (H29(2017))	83.9%	84.6%	81.2%		86.0%以上
	中3 (H29(2017))	68.4%	70.3%	67.6%		69.0%以上
「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						
自己有用感	小6 (H29(2017))	92.6%	95.4%	95.4%		94.0%以上
	中3 (H29(2017))	90.9%	93.7%	93.4%		92.0%以上
「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】						

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
チャレンジ精神 *	小6	78.8% (H29(2017))	—	79.3%			81.0%以上
	中3	71.7% (H29(2017))	—	70.2%			74.0%以上
「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
共生・協働の精神 *	小6	87.8% (H29(2017))	—	—			90.0%以上
	中3	84.3% (H29(2017))	—	—			85.0%以上
「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
社会参画に関する意識	小6	42.7% (H29(2017))	52.5%	55.8%			44.0%以上
	中3	29.6% (H29(2017))	35.7%	35.4%			31.0%以上
「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

*参考指標「共生・協働の精神」については、平成30年度と令和元年度は出典元の調査において設問がなかったため記載をしていません。

*参考指標「チャレンジ精神」について、平成30年度は出典元の調査において設問がなかったため記載をしていません。

主な課題

小学校での新学習指導要領の全面実施に向けて、これからの時代に求められる資質・能力を育むために、教科横断的な視点で教育活動を見直し、改善していくカリキュラム・マネジメントの必要性が高まっています。

東京2020オリンピックパラリンピックの開催を控え、「かわさきパラムーブメント」が目指すものや理念を各学校に浸透させて多様性を尊重する教育を計画的・系統的に推進できるよう支援することが必要です。開催が延期されたことで学校における取組の継続と充実が図られ、また、新たな取組の可能性が生まれると捉え、学校における特色のある教育活動の紹介や支援に取り組む必要があります。

国の通知を受けて、児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオである「キャリア・パスポート」の作成に取り組む必要があります。

教育改革推進会議における意見内容

「自己肯定感」や「将来に関する意識」が低下しているため、「キャリアパスポート」がうまく活用されることで意識の向上につながることを期待している。

目標値として低い「社会参画に関する意識」について、今後重点を置いて取り組む必要がある。そのために、小学校や中学校の時期から、「社会参画に関する意識」を育成することが考えられるとよい。

児童生徒に自己肯定感や自己有用感を身に付けさせるための取組が、教師の実践に対する支援が中心となっている。自己肯定感や自己有用感を高めるために何が必要か、児童生徒に対して具体的に何を行うか改めて考察し、そこから課題を引き出す必要がある。

今後の取組の方向性



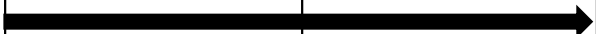
各学校が児童生徒に付けたい力を明確にして、その実現に必要な教育活動について教科等横断的な視点で組み立てていくカリキュラム・マネジメントに取り組む際に、現代的諸課題である、SDGs・ESDや、かわさきパラムーブメント等への視点を取り入れられるよう、リーフレットを活用しながら教職員への啓発を行っていきます。

「かわさきパラムーブメント」については、「教育改革推進だより」等で多様性の尊重につながる様々な教育活動の周知を通して、その重要性への理解を深め、実践事例も増えてきたことから、今後も好事例の紹介を継続するとともに、各学校が実情に応じてカリキュラムに位置付け、計画的・系統的に実践されるよう各校の全体計画を活用した研修等を通じて支援していきます。

川崎市独自の取組である、全児童生徒に配布しているキャリア在り方生き方ノートを改善して「キャリア・パスポート」としての機能を併せもつページを追加するとともに、長期にわたり児童生徒が自身の変容や成長を蓄積できるよう、ファイルを作成し、配布することで、自己評価できるよう支援をしていきます。また、教職員への研修を通して、キャリア・パスポートの効果的な活用について周知と指導を行っていきます。

社会参画に関する意識の醸成については、地域社会との連携が大切であり、キャリア在り方生き方教育では「わたしたちのまち川崎」を三つの視点の一つとし、取組を推進していきます。各学校における実践が進み、社会参画の意識も上昇している傾向がみられることから、引き続き各学校が特色ある地域との学びを継続し、改善できるよう、研修会等を通じて支援していきます。

かわさき共生 * 共育プログラムの実施やキャリア・パスポートを活用することによって、児童生徒の人間関係づくりのスキル獲得や自分自身の良いところや成長についての気づきを経て、自己肯定感や自己有用感を育てていきます。

施策1	キャリア在り方生き方教育の推進				
概要	<p>教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進していきます。</p> <p>発達の段階に応じた福祉教育の推進など、「かわさきパラムーブメント」の視点も踏まえた取組を計画的・系統的に推進します。</p> <p>教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」の活用や研修会などを通じて、全校での取組を支援していきます。</p> <p>高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」を作成・配布し、学校での活用を支援していきます。</p>				
事務事業名	キャリア在り方生き方教育推進事業 ★				
担当課	教育政策室（旧：教育改革推進担当）	関係課			
事業の概要	<p>将来の社会的自立に必要な能力や態度を育む教育を全校でより効果的に実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築や家庭との連携を図ります。</p>				
事業計画	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	
	研究推進校での研究結果等を活かした、キャリア在り方生き方教育の推進				
	キャリア在り方生き方教育の実施 ・各校における取組の実施				
	多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた支援 ・教職員の理解を深める研修の実施	・研修の実施及び校務用のネットワークを活用した実践の周知			
	「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進 ・高等学校用ノート試作版の作成 広報等による保護者等への理解促進 ・リーフレット配布等による広報実施	・高等学校用ノートの作成・配布	・活用推進	・活用推進及び小・中学校用ノートの見直し検討	
実施状況					
<p>①「キャリア・進路指導担当者研修会」を年間3回実施しました。また、学校等訪問研修会等を32回実施しました。</p> <p>②「キャリア・進路指導担当者研修会」や「かわさき共生＊共育プログラム推進担当者会」で「かわさきパラムーブメント」について説明するとともに、希望研修会「教室でできるパラムーブメント」を開催し、学校での多様性を尊重する教育の実践を支援しました。</p> <p>③児童生徒用「キャリア在り方生き方ノート」を作成し、配布しました。</p> <p>④「教育だよりかわさき」でキャリア在り方生き方教育の実践例を紹介し、保護者の教育活動への理解を深めました。また教育改革推進だよりで各学校における今日的教育課題への取組を周知し、管理職を中心とした教職員への啓発を行いました。</p>					
課題と今後の取組					
<p>①より学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントに向けて具体性のある研修を行っていきます。</p> <p>②多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた学校支援については、かわさきパラムーブメントへの取組事例を紹介しながら各学校の理解を深めていくことを継続します。</p> <p>③児童生徒が主体的に学びに向かう力を育む「キャリア・パスポート」の作成に取り組めます。</p> <p>④リーフレット配布等による保護者等への理解促進を継続していきます。</p>					